

この度、思いもよらず、陸水学会会長候補として推薦を受けました。それに報いるためにも推薦を受諾することにいたしました。推薦していただいた会員に深く感謝いたします。本会「会長および評議員選挙施行細則」に従って、800字以内で公約を述べたいと思います。

私が陸水学会に入会したのは1983年ですので、もう38年前になります。その年、信州大学で開催された大会に始めて参加しました。大学院修士2年、見ず知らずの方ばかりで、脚が震えるほど緊張しました。ところが、雰囲気がかきわめて和やかであったこと、また多くの会員が自身の研究の魅力を楽しそうにかつ真摯に発表していたこと、さらに発表を終わって多くの方に声をかけられたことなど、今までにない経験が刺激となって、この科学の面白さの虜になってしまいました。記憶をたどると、私が研究者の道を目指すようになったのも、このときの経験が契機となっています。この経験を、「陸水」に足を踏み入れたすべての学生や若手研究者に提供出来るよう努力したい、これが公約の第1番目です。

学会は会員が共有するものですし、科学は自由です。陸水学はこうあるべきという発想は私にはありません。Limnologyはフォーレル博士が今までにない科学としてつけた名称ですし、陸水学は川村多実二博士が陸の水の場でのあらゆることを調べようという哲学から名付けたものと聞いています。このスピリットを活かすため、陸水学会は、会員が自身の科学を自由に楽しく研鑽出来る場にしたいと思っています。2番目の公約です。

学会をさらに開かれたものとするためには、運営予算の安定化や法人化、英文誌のオープンアクセスなど懸案事項があります。これら課題は、これまで献身的に努力されてこられた歴代会長や幹事、各種委員のみなさんと連携をとりながら、現実的な道筋を会員と探り、1つひとつ解決してゆきたいと思っています。3番目の公約です。(799文字)

日本陸水学会選挙公約

2021年10月15日

東北大学大学院生命科学研究科

占部城太郎